

インクルーシブ教育の実態と改善の可能性  
 宇佐美彩（生涯スポーツ学科 地域スポーツコース）  
 指導教員 金田安正

キーワード：インクルーシブ教育 支援員の役割 校内支援体制の構築

1. 緒言

筆者は、現在S中学校の通常学級に在籍している知的障害児Yの学習面を特別支援教育支援員としてサポートしている。

他生徒とトラブルを引き起こすことで、教師からの叱責等を受け、さらにYは問題行動を起こす。この問題に対し、どのように対応すべきかを検討する。

2. 研究方法

対象児Yの行動観察記録をとり、どのような問題が、どのような場面で起こっているのかを分析・整理した上で、文献を参考に改善策を考えた。

3. 結果と考察

筆者が支援活動を行う以前は、担任が1人でクラス全体を把握し、指導していた。

図1のとおり、筆者が支援員として加わってからは、Y本人に直接的に関与するとともに、学級の中でも比較的協力してくれる生徒数名に対し、Yとともに行動するため筆者と一緒にレク活動をしたり、Yについて説明するなどのアドバイスを施した。他の生徒は、Yといろいろトラブルを起こしたりしながらも、コンタクトを取りはじめた。クラス内に改善がみられた後、さらに、図2のとおり

担任が管理職をはじめ、他の教員や特別支援教育コーディネータとも連絡をとったことで、学校の教員全体が協力をしてくれるようになり、その後学校全体で協力し、連携して対応するようになった。

4. まとめ

教員1人では対応しづらかったが、支援員が入ったことで、Yに手厚い教育が施せるようになった。さらに、支援員が他の生徒にも働きかけることで、他の生徒とYの対応が改善された。また、校内全体の協力体制が構築されたことで、Yの行動について一層の改善をみた。

5. 引用・参考文献

國分康孝（1998）児童生徒理解と教師の自己理解 図書文化社

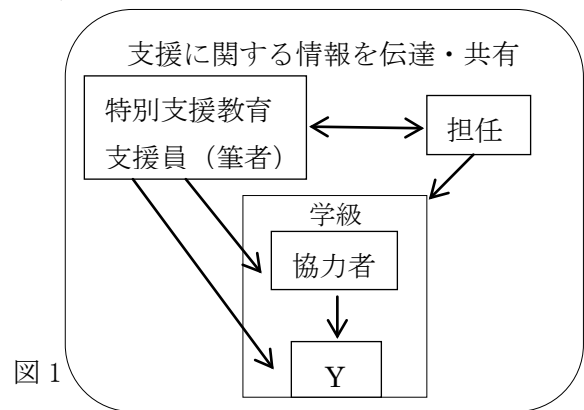


図1

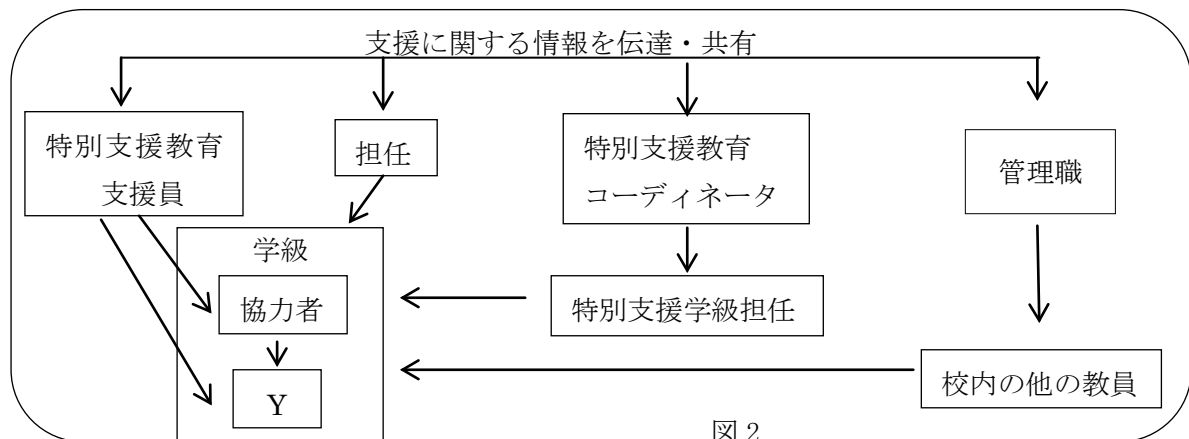


図2